

## 研修報告書 No.5

研修先： 田野病院

この度、高知県安芸郡田野町にある田野病院にて 1 か月間の地域医療研修をさせていただいたのでご報告させていただきます。私は関東の地方大学出身で、現在は都内の 3 次救急病院で初期研修をしております。地域医療については学生時代の地域医療実習で触れる機会がありましたが、研修医となってからは医療資源が豊富な自分の病院での研修しか経験がなかったため、今回の地域医療研修は大変貴重な機会となりました。

まず初めに衝撃的であったのが、田野病院は 2 次救急医療機関でありながら高知県最東端に位置しており、中芸地区・東部地域の最後の砦であるという話を伺ったことです。田野町よりも東に位置する地域には救急病院がなく、過去には小児の心肺停止患者さんが 1 時間以上かけて搬送されたという話を聞いたときには地域医療の深刻さを肌で感じました。また介護の領域に関しても人手不足は深刻だと思いました。ヘルパーが不足しているためにケアマネージャーが利用者さんのごみ捨てや医療機関の受診に付き添わざるを得ない状況を知りました。ちょうど 6 月 25 日の高知新聞に西部ではケアマネージャーが不足しているために利用者さんがプランを自己作成しなければいけない地域があること、ケアマネさんも燃え尽き症候群に陥っていることが特集されており、高知県全体の介護職員の不足という課題を認識しました。

また、地理的な問題についても自身の足で移動したことで実感しました。高齢者の自動車運転については全国的にも課題とされており、田野病院でも免許更新のための診断書を求める患者さんがいらっしやいました。実際、公共交通機関で移動を試みたところ、田野病院のある田野町から室戸までは 1 時間に 1 本のバスを乗り継ぎ 40 分～1 時間程度かかります。また、田野町から高知市内へ移動する場合も、1 時間に 1 本程度の汽車に乗り 1 時間かけて行くこととなります。交通費も片道 1000 円以上はかかるため、高齢者の方にとっても運転免許の返納をして公共交通機関を利用するのはハードルが高いと思いました。

一方で、高知の医療を拝見して感じたのが新しい試みへのフットワークの軽さやチャレンジ精神です。研修中、回復期リハビリテーション病床の発祥は高知県の近森病院だということを知りました。田野病院でも地域住民の健康を改善しようと、新たな外来を設けたり、医療系の学校の新設や地域の子供たちへの働きかけを熱心にされており、その機動力が印象的でした。

田野病院の研修では、院内では外来や病棟、各部門研修、リハビリテーション見学などを、また院外でもデイサービスや老健施設、クリニックや地域の中核病院での実習を行い、地域医療の全貌を広く勉強させていただきました。研修医になってからはなかなか医療スタッフの方たちとゆっくりお話する機会も少なかったため、いろいろな職業の方から教えて

いただけたことは大変有意義であったと思います。また、都心ではなかなか少なくなってしまう、住民の方たちの顔の見える関係性を拝見し、地域全体が町をより良くしていこうとしている姿に、私もいかにして患者さんの生活をよりよくできるか、ということ意識して医療を行っていきたいと改めて思いました。

最後になりますが、お忙しいところ貴重な機会を設けていただいた田野病院の先生方、スタッフの皆様、並びに高知医療再生機構の皆様、そのほか関係者の全ての皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。